

スポーツ大学における各部活動のリーダーに関する調査研究

寺口 実里 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 渋谷 俊浩

キーワード：部活動, リーダー, 判断力

1. 緒言

大人数の組織をまとめるためには、中心に立つリーダーの存在が必要であると考えられる。筆者はこれまで主将などのリーダーとしての経験はないが、副リーダーやパート長などを経験してきた中で、様々な考えや、悩み、喜び、苦勞もあり、また反省点も多々あった。このように、補佐的な立場であっても多様な役割が要求される一方で、リーダー（主将）になるとさらにどのような役割が要求されるのだろうか、また、リーダー達はどのような考えを持っているのだろうか。

これらをふまえ、本研究では本学の各運動部活動のリーダーにとって真に必要な能力とは何かを調査することで、スポーツ大学における理想のリーダー・リーダー像とはどのようなものかを検討することを目的とした。

2. 研究方法

本学各運動部活動の現キャプテンとキャプテン経験者 40 名に対し、「判断力」「コミュニケーション力」「人間力」に関するアンケート調査を実施した。

SPSS を用いて単純集計を行い、上記 3 要因について「性別」「種目特性別」「リーダー経験の有無」の 카테고리ごとに t 検定を用いて分析した。

3. 結果および考察

分析の結果、すべての比較項目において、特に有意な差は見られなかった。一方で、中学・高校共にキャプテンの経験がない者と、中学・高校共にキャプテンを経験してきた者の 2 群

間の比較では、ほとんどの設問事項において、キャプテン経験があるリーダーの方が高い得点を示した (図 1)。

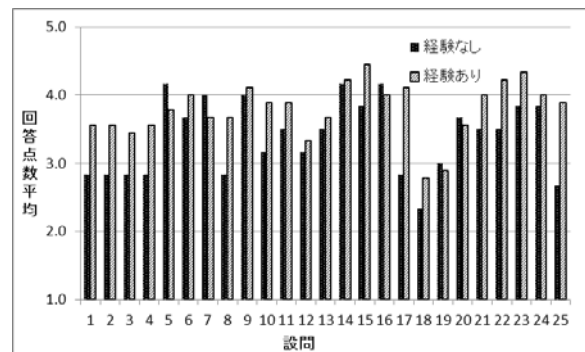


図 1. 経験あり・経験なしでの結果

これらのことから、本学の運動部活動における理想のリーダー・リーダー像は「中学校・高校時にリーダーの経験がある」「リーダー歴が長い」「これまでの経験を意識や行動として身につけている」人物であると考えられた。

4. まとめ

本学運動部活動の理想のリーダー・リーダー像は「中学校・高校時にリーダーの経験がある」「リーダー歴が長い」「これまでの経験を意識や行動として身につけている」人物であることに加え、「判断力・コミュニケーション力・人間力をバランスよく兼ね備えている」ことも重要な条件であるということが考えられた。

参考文献

松林正一郎 (2011) 「リーダーシップ考 - 大学生のリーダーシップ観」 多摩大学グローバルスタディーズ学部紀要第 4 号 : 87
斉藤 仁 (2008) 「常勝力」 結果を出し続けるために、リーダーがすべきこと 幻冬舎